

福島わらじまつり

毎年2月の「^{あかつき}暁まいり」で奉納される
羽黒神社の大わらじ（長さ12m）は日本一。

わらじまつりと太わらじ

^{しのぶやま}信夫山にある羽黒神社の大わらじ（長さ12m）は日本一と称され、古来より健脚を願って毎年2月の「^{あかつき}暁まいり」において奉納されています。大わらじは、昔羽黒神社に仁王門があり、安置されていた仁王様の大きさにあったわらじを作って、奉納したのがはじまりだといわれています。その後、伊勢参拝などの長旅に出かける人々が健脚、旅の安全などを祈って奉納するようになりました。

毎年2月の「暁まいり」は江戸時代から四百有余年にわたり受け継がれた伝統あるお祭りで、大わらじ（現在は片足分）が奉納されます。福島わらじまつりは、その「暁まいり」に由来し、日本一の大わらじの伝統を守り、郷土意識の高揚と東北の短い夏を楽しみ、市民の憩いの場を提供するまつりとして例年8月上旬に実施しています。

わらじ音頭

古くから福島に伝わる「福島盆踊唄」のリズムを参考に、古関裕而さんが作曲した「わらじ音頭」を編曲しなおし、新たに「わらじ太鼓みだれ打ち」をはじめとした楽曲を加えました。笛や太鼓といった古くから東北地方にある楽器を使っの巨大アンサンブルが今後の「わらじまつり」の大きな特徴になります。



詳しくは「福島わらじまつり」
ホームページをご覧ください。



わらじまつり物語

「わらじまつり」のもとになっている「暁まいり」の起源は、実はよくわかってはいません。ただ、福島には数多くの伝説や民話が残っていて、そこから想像力を巡らせることはできます。そんな伝説や民話をもとに、脚本家の渡辺あやさんに、わらじまつりの始まりの物語を作ってもらいました。起源がわかれば、そこからぶれずに、いかようにも祭りを発展させていくことができます。大わらじの動きも、踊りや音楽、衣装もこの物語をもとに発展させていきます。ホームページで、物語が公開されていますので、ぜひご覧いただければ幸いです。

わらじまつり物語
文・渡辺あや
福島弁監修・森和美
絵・飯野和好



わらじおどり

わらじの物語に添いつつ、老いも若きも、その人のレベルに応じてだれでも生演奏にあわせて楽しく踊れるおどりを振付家・ダンサーの伊藤千枝子さんにつくってもらいました。「わらのわ」と呼ばれる輪を両手に持ちながら、健脚をイメージさせる下半身の動きに特徴をつけています。だれでも楽しく参加できる踊りです。この先、福島にしかない、世界中の人たちが踊りたくなるような踊りや衣装を目指していければと思います。

